

Genome Editor GEB15



CUY21EDIT II から受精卵のゲノム編集に必要な機能だけを抜粋し、低価格を実現

ハイスループットで高効率のゲノム編集が可能

特長

受精卵ゲノム編集に特化

CUY21EDIT II で発表された Genome Editing by Electroporation of Cas9 Protein (GEEP) 法は従来のマイクロインジェクション法が顕微鏡下で一つ一つ胚操作が必要だったのに対して、専用電極 (LF501 シリーズや GE シリーズ) を使用することで、均一条件下で受精卵の操作ができるため、作業時間を格段に短くすることができます。

本製品は CUY21EDIT II から受精卵ゲノム編集に必要な機能のみを絞った、簡便で安価なエレクトロポレーターです。

精度の高い矩形波を In vivo へ

CUY21EDIT と同じ矩形波を出力でき、極性切替も可能です。

CUY21EDIT で導入できた In vivo、In utero、Ex vivo、in ovo、Ex ovo の実験ができます。

操作はタッチパネルで簡単です。自動的に実行電流値が 100 件が保存され、USB でパソコンに保存ができます。プロトコルも 20000 プログラム以上保存でき、プログラム名を任意に設定することができます。

仕様

出力電圧	1 - 200 V (1 V 刻み設定)	抵抗測定範囲	0.000 - 4.00 k Ω
パルス幅 (Pon)	0.10 - 1000 ms	実行電流測定範囲	-1000 mA - +1000 mA (1 mA 単位で表示)
パルス間隔 (Poff)	1.00 - 1000 ms	保存可能プログラム数	20,000 プログラム以上保存可能
パルス回数	1 - 1000 (Pd(+)) の場合 ; 1 - 500 (Pd(+/-) または Pd(ALT) の場合)	実行履歴保存機能	直近 100 回分を保存。USB でバックアップにて PC にエクスポート可能。
電源	単相 100 V ; 260 VA ; 50/60 Hz		
外寸・重量	幅 240 mm 奥行 380 mm (突起物を除く) 高さ 190 mm (ゴム足を除く)、重量 5.5 kg		

※掲載商品の仕様及び外観は、改良の為予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。